

平成22年度「産業社会と人間」・「産業理解」実践報告

産業社会と人間・産業理解委員会

丹羽美由紀 深澤孝之 松井一夫 大津展子
熊倉悠貴 川上有正 建元喜寿 塗田佳枝
石田光枝

本校では「産業社会と人間・産業理解」の授業を生徒の実態や社会での必要性に応じて、授業内容を見直し改善を行っている。本年度の取り組みにおいては、特に「作文による振り返り指導」に重点をおいき、作文を書くことでより深く自分と向き合うことを目指した。この取り組みについて重点的に述べる。

キーワード：産業社会と人間・産業理解、ライフプラン、振り返り

1. はじめに

本校での「産業社会と人間・産業理解」は、総合学科原則履修科目である「産業社会と人間」と、それを補完する授業として研究開発された「産業理解」を合わせた授業である。「産業社会と人間」は「自己を知り、自己の生き方を探る。社会を知り、自己と社会の関係を知る。そして今学すべき学習を自分で選択する」ことを、「産業理解」は「産業と社会のかかわりや産業のしくみなどを学び、他者から自己への働きかけを促す」ことを目的にしている。本校では、この「産業社会と人間・産業理解」（以下、産社産理と略す）において、生徒が正しい自己選択・自己決定ができるように促すことで、生徒自身のライフプランを確立させ、その実現のために必要な学習、現時点では2年次・3年次で学習する科目選択ができるように、産社産理の授業内容を考えている。

2. 今年度の「産業社会と人間・産業理解」のねらい

－作文による振り返り指導－

この科目は、一年次の担任副担任8名とプラス1名で担当しており、新担任団が決定次第、内容の協議・検討を行う。産社産理の授業の意味を「自分が生きていくための価値観を持つ、自分の将来について積極的に考える、そのために産社産理がある」と考え、今年度のキーワードは「価値観」とした。年間計画の中心となるものは、ほぼ例年にならい①コミュニケーション・キャンプ ②菜園作り ③職場体験 ④日本銀行・東京証券取引所見学 ⑤福祉体験 ⑥筑波大学見学 ⑦特別支援学校との交流会（科目選択予備調査・本調査）ライフストーリー・ライフプランの作成、とした。年間計画とそれぞれの実践内容はく資料1く資料2くを見ていただきたい。そしてさらに「1年間頑張ったこと、取り組んだこと」

を目に見える形で全員等しく分かる形にして残したいと考え、授業単元が終わるごとに文章にまとめさせることにした。

そこで今年度は各授業単元が終了したときに活動を振り返るための作文を書かせる取り組みを行った。これは生徒が活動を通して何を感じ、何を考えたかについて800字程度の作文を書くことでより深く自分と向き合うことを目指したものである。これまで活動についての簡単な感想を書くことは課していたが、このような作文による振り返りを実施したのは初めてである。22年度では表1に示す12回の作文を課した。

表1 振り返り作文 課題一覧

日付	課題内容	字数
4/21	コミュニケーションキャンプ 振り返り	800字
5/18	講演会（ダニエル氏）	800字
6/18	ライフストーリー	800字
7/20	菜園作り振り返り	800字
8/5	職場体験振り返り	800字
9/1	日銀・東証見学振り返り	800字
9/15	福祉体験振り返り	800字
10/20	筑波大学見学振り返り	800字
10/25	交流会振り返り	800字
12/11	私の時間割	400字
1/11	私のライフプラン	1600～2000字
2/4	環境と産業振り返り	600～800字

この取り組みによって当初期待された目的がどの程度達成されたかについては実際の作文やアンケートなどを詳しく分析する必要がある。現在その分析のための方法等について検討しており、それらについては別の機会に報

告することとし、本稿では簡単な概要の報告にとどめる。

この指導に関して年度末に次の項目についてアンケート調査を実施した。

- ①振り返り作文を書くことで、学習内容や活動内容を改めて見つめなおすことができた。
- ②入学時よりも、数百字の作文を書くことに対する抵抗感が減少した。
- ③入学時よりも、自分の思いを文章で表現することが上手になった。

回答はいずれも

そう思う、ややそう思う、

あまりそう思わない、そう思わない

の4つの選択肢とした。

①の質問についてはほぼすべての生徒が、そう思う(46%)またはややそう思う(46%)を選択している。このことから作文を書くことで一定程度は振り返りの効果があったと推察されるが、生徒による振り返りの程度や深度、授業者の期待する考察にまで及んでいるのかといったことについてはこの結果だけでは判断できない。今後生徒が書いた作文などを十分に分析する必要がある。

②の質問についてはおよそ4人中3人がそう思う(39%)またはややそう思う(35%)を選択している。この作文指導では文章を書くことに対する苦手意識や抵抗感を低減させたいという意図もあった。本校では2年次以降総合的学習の時間や卒業研究を通して、報告書や論文を書く機会が多くある。1年生の段階で文章を書くことについて抵抗感を減らすことができれば、2年次以降の学習にプラスとなる。当初作文を書くことを負担に感じる生徒が多いことが予想された。そのため作文の書き方についての指導も必要であると考え、作文2～3回に1回程度の書き方指導の時間を設定する予定であった。しかし実際には4月に1度だけ設定することができたが、それ以降はできなかった。この指導がもう少し充実できれば生徒の文章を書くことに対する意識もさらによい方向へ向かわせることができたのではないかと考えられる。

③の質問については7割程度の生徒がそう思う(19%)またはややそう思う(50%)を選択している。自分の考えを表現する力の育成も作文指導で期待した面の1つであった。この点についてももう少し丁寧な指導ができていればより一層生徒の力を引き出すことができたであろう。

いずれにせよ簡単なアンケート結果であるのでこれをもって指導の評価とすることはできない。

十分な評価は今後の課題とするところであるが、この

活動の成果として1つだけはっきりとした事実がある。それは生徒が活動の総括を自分の言葉で表現しなければならなかったということである。このことで生徒一人一人が確実に活動をもう一度「思い出す」必要があった。「振り返る」ためにはその第一段階として「思い出す」ことが必要である。この課題は未提出が許されないから自分の責任においてその思い出したことを書くことまでは全員ができたということがいえる。

産業社会と人間においては色々な人の意見を聞く中で自分の考えを見直すことも重要な課題の1つとなっている。作文を書くことで振り返りを促すことはできると考えられるが、それだけだと自己完結で考察が終了してしまい多様な視点から物事を考えることが制限される。産社の活動としては作文を書いた後に、生徒同士で考えを共有したりディスカッションなどの場面があるとさらに効果的であったのではないだろうか。

3. 今年度の取り組みに対するアンケート結果と考察

今年度の産社産理の取り組みについて、アンケート調査を実施した。(振り返り作文に関する質問は前述2で述べたとおりである。)

回答はいずれも

そう思う、ややそう思う、

あまりそう思わない、そう思わない

の4つの選択肢とした。項目は以下の通りである。

- ① 入学時よりも、自分自身について、しっかり見つめ直すことができた。
- ② 入学時よりも、自分のこれからの人生どのように生きていくかについて考えることができた。
- ③ 入学時よりも、社会の現実・現状について、新たに知ることができた。
- ④ 入学時よりも、現実の社会の中で働くことへの意欲がわいた。
- ⑤ 入学時よりも、他人の意見に積極的に耳を傾けるようになった。
- ⑥ 入学時よりも、自分の思いを積極的に他者に伝えるようになった。
- ⑦ 入学時よりも、現実社会の出来事に対して、問題意識をもつようになった。

①の質問についてはほぼすべての生徒が、そう思う(57%)またはややそう思う(40%)を選択している。特に影響を与えたと思う授業としては、「ライフプランの作成」が特に多く、続いて「科目選択の本入力」があ

げられていた。ライフプランを書くためには、今までの自分を見つめ直す必要があり、これから何をすべきか、またそのためには今学校でどのような勉強をすべきかしっかり考えることができたようである。

②の質問についてもほぼすべての生徒が、そう思う(57%)またはややそう思う(37%)を選択している。特に影響を与えたと思う授業としては①とほぼ同じで、「ライフプランの作成」「科目選択の本入力」があげられていた。「ライフプランを書くことで、自分のことを深く考えることができ、目標が決まり、そのためにどのような人生にするか計画することができた」という感想もあった。また「書けないと思っていたライフプランがきちんと書けるようになっていた」といった感想も多かったことから、1年間の産社産理の授業を受けたことで、自然に自分について考えることができるようになっていたようである。

③の質問についてもほぼすべての生徒が、そう思う(39%)またはややそう思う(53%)を選択している。特に影響を与えたと思う授業としては、「これからの社会を考える(DVD:世界が100人の村だったら)」「環境と産業」「福祉入門」「日本銀行・東京証券取引所見学」「特別支援学校との交流会」・「職場体験」があげられていた。「知らなかったことを知れた、視野が広がった」という意見が多く、その中でも「学校にも行けず働いている子どもたちがいるという世界の現実を知った」「自分が楽して暮らしている一方でいろんな人たちが頑張っていたり苦しんでいる、人ごとではないと思った」といった貧富の差、戦争、環境問題をあげていた生徒が多かった。厳しい現実を知り、ショックを受けている生徒も見受けられた。そのショックを受け止め、どのように解決すべきか、主体的な行動に移していってくれることを期待したい。

④の質問についてはこれまでとは異なり、8割弱の生徒が、そう思う(32%)ややそう思う(44%)と答え、2割の生徒があまりそう思わない(20%)と選択している。影響を与えたと思う授業としては、「職場体験」「仕事発見ガイダンス」があげられている。職場体験において、働く人たちのいきいきしている姿を目にして自分もそのように働きたいと思ったり、体験してみても楽しさを感じたり、またやりがいのある仕事を見つけたいと思う一方「まだ自分の未来がイメージできていない」「現実の厳しさを知ってしまった」「考えすぎてわからなく

なってしまった」といった感想も少なからずあった。しかしこれは、産社産理の授業を真面目に受け考えたことによって、色々な問題点や不安が生じ、自分の将来について簡単には決められないといった状態になっていると思われるので、今後肯定的な考えに向かうことを期待したい。

⑤の質問については85%の生徒が、そう思う(38%)またはややそう思う(47%)を選択している一方、あまりそう思わない(10%)を選択している生徒も1割いた。影響を与えたと思う授業としては、「コミキャン」:「ダニエルカール氏講演」「福祉入門」「特別支援学校との交流会」「ライフプランの作成」「科目選択ガイダンスと授業見学、卒業研究発表会見学」があげられている。「自分とは違う考えを持つ人の話を聞き、その人のことを深く知ることができた」また「相手の話に耳を傾けて相手を理解しようと努力するようになり、さらには自分の考えも持てるようになった」という感想もあった。他者を理解することで、自分を理解することになった良い例ではないかと思う。

⑥の質問について生徒は65%の生徒が、そう思う(24%)ややそう思う(41%)を選択し、35%の生徒があまりそう思わない(29%)そう思わない(5%)を選択しており、否定的な回答も多く見られた。影響を与えたと思う授業としては、「コミキャン」・「ライフプランの作成」があげられている。「思いを相手に伝えなければ後で後悔すると知った、言ってあげる心の強さを必要だと感じた」「きちんと筋の通ったことを言えるようになった」「これまでは他人の意見に流されがちだったが、努力して変わった」「人と関わることで自分の意見を他人に伝えるトレーニングができた」というような肯定的な感想と、「まだ積極的にまではいかない」「作文には自分の意見を書くことが出来たが、他者へ伝えることはまだ難しい」といった感想があった。作文のところでも述べたように、強制的に発表させる場が少なかったことで、まだ積極的に意見を述べる自信はついていないかもしれない。

⑦の質問については、8割の生徒は、そう思う(32%)ややそう思う(48%)を選択しているが、あまりそう思わないを選択した生徒も15%見られた。影響を与えたと思う授業としては、「これからの社会を考える(DVD:世界が100人の村だったら)」「環境と産業」「福祉入門」「日本銀行・東京証券取引所見学」「職場

があげられており、当然ながら③の回答とほぼ同じである。さまざまな問題があることを知り、どうすればよいのか考えたといった意見が多かった。「何か行動を起こさなければならないと思った」「福祉に関する問題はどのようなことがあるのか考え、解決策を考え、親とも話し合った」といった生徒もいた。一方、現実社会にあまり興味関心がない、現実味がないといった生徒がいることも現実であるが、この後の活動によって彼らも現実社会に興味関心を持つようになることを期待したい。

4. おわりに

1年間の産社産理の授業を通して、生徒達は「自分が生きていくための価値観」を持つことができたのだろうか、「何のために、何に向かって何を学ぶべきか」を考えさせることは、自分は何ができるか、自分の個性に合った職業は何か、今社会はどのような問題を抱えているか、ということを考えさせることになる。産社産理を大きくとらえると、「人間は生きていかねばならない、そしてそのためには自分が社会のために役立つ人間にならねばならない」ことを認識するためにあるのではないかと思う。自分をとりまく社会状況や環境問題について学んだことで、日本、さらには世界、そして地球、1つしかない地球の上で人間は生きており、一人に一つずつの命を持っていることを感じてほしいと思う。そして我々教員は、生徒一人一人の個性や進路に対応した学習が可能になるように、産社産理の授業をこれからも考え、改善していく必要があると思う。

<資料1>

H22産業社会と人間・産業理解 本年度の実践内容

1. コミュニケーションキャンプ
2. 菜園づくり
3. 職場体験
4. 東京証券取引所・日本銀行見学
5. 福祉体験
6. 筑波大学見学
7. 特別支援学校との交流会
8. 科目選択ガイダンス、科目選択予備調査および本調査
9. ライフストーリー・ライフプランの作成

1. コミュニケーションキャンプ

主題：自分をみつめる

配当：6時間

場所：黒姫ライジングサンホテル3泊4日

内容：アイスブレイク・マウンテンバイク（ホテル→野尻湖1周→ホテル）・森散策

目的：1. 新しく知り合った新入生159名の仲間との友情を培う。さまざまな性格・個性を持った友人とのふれあいの中で、他者を知り、自己を知るとともに、互いに尊重、協調して生活する基盤を作る。

2. 総合学科における学習姿勢について学ぶ。将来の職業選択を視野に入れながら、主体性を持って、学習に取り組む心構えを身につける。そして、総合学科における生活・学習体制を学び、「自ら考え、自ら学び、自ら行動する」という基本姿勢を理解する。

3. 黒姫高原の自然に触れ、人間と自然環境が調和して生活することを学ぶ。黒姫高原での様々なアクティビティ（活動）を通して、自然の厳しさ、美しさを体験し、人と環境とが調和して生きることの大切さについて考える。

2. 菜園づくり

主題：何を学ぶか、どう生きるか

配当：6時間+放課後や始業前（生徒各自での作業）

ねらい：

- 1) 毎日食べている食料の重要性に気づき、食料を大切にすることを育む。
- 2) 自分の区画を持って栽培することで、責任感を育む。
- 3) 苗の生長にあわせ、自己の将来についてしっかり考えられるようにする。

内容：

- 1) 事前準備：各クラスを8人5班に分け（各班で班長を決める）、野菜苗を定植する日の前日に放課後、班長に作業内容を指示
- 2) 畑づくり定植作業：生徒一人一人が自分の区画をもち（約2㎡）、トウモロコシ苗（4本）、エダマメ苗（6本）を定植。水やりや除草は、各自が始業前あるいは放課後に行う。
- 3) 収穫：夏季休業直前に収穫を行い、各自、自宅に持ち帰って試食する。

3. 職場体験

主題：社会の中で生きること

配当：14時間+実際に行った体験時間（基本1日）

内容・ねらい：

- 1) 事前学習

- ①「職業発見ガイダンス」：具体的な職業についての知識を広げる
 - ②「マナー講座」：職場体験に向け必要最低限のビジネスマナーを知る。
 - ③「社会人講話」：職場体験先の担当者による講話から、職業観や勤労観について生徒の意識向上をはかる。
- 2) 職場体験：事前学習で得られた知見を、実際の職場体験先で生かす。
- 3) ふりかえり（報告会）：事前学習ならびに職場体験によって得られたものをグループで振り返り、体験した仲間との人間関係を作り上げることが出来たか、実際に働くことにより仕事に就くこととはどのようなことなのかを考えたか、などをグループごとに発表した。

学習の様子や成果等：

職業については遠い未来のことのように感じていた生徒だが、事前学習を含め職場体験をすることにより、社会の一員として意識できた生徒が多数あった。仕事をすると大変さを実感し、働く人の立場にたって物事を考える力を習得したのではないだろうか。

4. 東京証券取引所・日本銀行本店見学

主題：社会の中で生きること

担当：8時間

内容・ねらい：

- 1) 事前学習：現代社会を構成する社会基盤として金融システムをとらえ、その一端として証券取引ならびに日本銀行の役割の概要を理解する。
- 2) 訪問見学：事前学習で得られた知見を、東京証券取引所・日本銀行本店を実際に訪れ、その空間やそこで営まれる活動に触れることで現実的な感覚とし、そうした経済活動の中で生きていく未来の自分について想像するきっかけとする。
- 3) ふりかえり：事前学習ならびに訪問見学によって得られたものを意識的に振り返り、人々の経済活動を基盤として成立している現代の産業社会と自らの接点を考え、また、その中で生きる未来の自分について考える（作文）。

学習の様子や成果等：

生徒の日常とは大きく異なる空間への訪問見学であり、適度な緊張感を持って生徒は活動していた。また一方、自分たちが経済活動の主体であり、その延長線上に金融も存在するという事を知り、自らを産業社会の一構成

員として意識できた生徒も多数あった。しかし他方、単なる遠足として訪問見学を終了してしまった生徒もあった。学習としてのより明確な意識づけのために、さらなる改善が必要であろう。

5. 福祉体験

主題：他者を知り、自分を見つめ直し、理解する。

担当：6時間

内容・ねらい：

- 1) 事前学習：人がもつ社会的なバリアを解消していく活動が社会福祉であることを理解する。社会福祉との出会いとして、「障害」とは何かについてICF（国際生活機能分類）を用いて考える。
- 2) 福祉体験：障害のある方の講話、福祉体験を通して社会的バリアについて考える。視覚障害、肢体不自由の方の講話およびアイマスク体験、車イス体験。
- 3) ふりかえり：講話・体験を通して社会的バリアについて考えたことをまとめる。（作文）

学習の様子や成果等：

ほとんどの生徒がこれまで障害のある人と出会ったことはなく、今回の授業が障害のある人との出会いであった。そのため、「障害」とは何なのか社会的バリアとは何なのか講義を行ってから当事者の講話、障害の疑似体験を行った。比較的想像しやすい視覚障害、肢体不自由であったが、当事者の講話では、想像の及ばないところまで話していただき、新たな発見があったのではないだろうか。

6. 筑波大学見学

主題：何を学ぶか、どう生きるか

担当：9時間

内容・ねらい：

- 1) 事前学習：親大学である筑波大学の概要を知り、上級学校進学への意欲を高める。
- 2) 訪問見学：筑波大学を実際に訪れ、大学の授業を体験したり、筑波大学へ進学したOGの体験談を聞いたりし、上級学校進学と持続可能な学習意欲を身につけるきっかけとした。
- 3) ふりかえり：「筑波大学って広い・大きい」「大学の先生ってすごい」などの感想が多くあったが、「自分が強い意志で計画的に勉強していくことが大切」などの感想を記している生徒もいた。

7. 特別支援学校との交流会

主題：他者を知って自己を理解する

担当：3時間+事前指導1時間+各クラスで準備

内容・ねらい：

- 1) 事前学習：障害のとらえ方について理解する。障害を軽減するための方法について考え、知る。特別支援学校についての概要を知る。
- 2) 交流会準備：
A組：埼玉県立特別支援学校埼玉一学園
B組：筑波大学附属聴覚特別支援学校
C組：筑波大学附属大塚特別支援学校
D組：筑波大学附属桐が丘特別支援学校
事前学習を元に、「自分たちが現在できること、将来できそうなこと」を考えさせ、具体的な交流内容を検討させる。
- 3) ふりかえり：事前学習、交流会準備、交流会から得たことを振り返る（作文）。

学習の様子や成果等：

準備段階ではなかなか意見が出ず、担任主導で進む場面もあった。やがて生徒から具体的な提案がされるようになり、リーダーシップを取る生徒も現れるようになった。振り返りの作文では『同じ高校生なのだ』という感想が多く寄せられた。多くの生徒にとって、障害ならびに障害者に対する理解が進む契機となった。

8. 科目選択ガイダンス、科目選択予備調査および本調査

主題：何を学ぶか、どう生きるか

担当：科目選択ガイダンス2時間、予備調査2時間、本調査2時間（関連項目：系列ガイダンス、授業見学、進路希望調査、三者面談など）

内容・ねらい：

- 1) 科目選択ガイダンス：
科目選択の方法、選択科目の説明を行う。高校の時間割、科目選択の意味、高校で学ぶ科目について説明し、夢の実現に向けて自らの意志で自分の時間割を作らねばならないことを理解させる。（関連項目：系列ガイダンス、授業見学）
- 2) 予備調査：
具体的に科目選択を行い、2、3年次の時間割を作成する。作成した履修計画はコンピュータを使って登録する。入学して早々（1年次5月下旬）に行うことで、総合学科の生徒としての基本的な態度である自律を促す。

3) 本調査：

科目選択について最終判断を行い履修登録する。また自らが作成した時間割についてその意味や最終判断までの気持ちの変化などをまとめた作文を書く。高校の学びは直接卒業後の進路に大きく影響を与えることを意識させ、自らの判断が自らの将来を決めることを十分に理解させる。

（関連項目：三者面談（夏休み）、進路希望調査）

学習の様子や成果等：

総合学科に入学してくる生徒の中には、自分で学ぶ科目を決めることができることに魅力を感じているものが多い。また科目選択は直接的に自分の近未来（2、3年後）を決めることが明確に理解できるためすべての生徒が真剣に取り組むことができている。本校では5月に予備調査、12月に本調査を実施することで比較的長時間に渡って科目選択に対する意識を持たせるようにしている。夏休みには三者面談を行い、保護者の意見と生徒の意見の違いなどを知る機会も設けている。産業社会と人間の授業の最も中心となる項目だけにこの授業を他の項目と上手く関連させることが課題となる。

9. ライフストーリー・ライフプランの作成

主題：何を学ぶか、どう生きるか。

担当：11時間

内容・ねらい：

1) ライフストーリー作成（6月・2時間）

科目選択の予備入力後、適性検査や1学期の産社の内容を振り返りながら、自分の興味や適性から仕事や学問について考え、今後の高校生活について800字程度にまとめる。ライフプラン作成の前段階として、現時点での自分の考えを記しておく。

2) ライフプラン作成（12月・3時間+宿題）

科目選択の本入力後、将来の夢や希望を実現するために今後どのように生きていくかを1600～2000字にまとめる。このライフプランを元に発表会を行うため、わかりやすくまとめ、伝えることを意識させる。事前学習として「ライフプランを考える意義」の講義や過去の発表を見た後、1学期に書いたライフストーリーや産社ファイルを見直しながら構想を練っていく。

3) ライフプラン発表会（1月・6時間）

各クラスで20人ずつ2回に分けて全員が発表する。

学習の様子や成果等：

授業当初から各単元後に800字程度の作文を書いているためか、1600~2000字という字数にも抵抗感が薄い

ようである。発表会のクラス代表4名は研究大会で発表する予定。

<資料2> 年間計画

学期	月	日	主題	単元	区分		各時限の内容		
					産社	産理	5時限	6時限	7時限
一学期	4	10-13	自分を見つける	総合学科 オリエンテーション	6		コミュニケーションキャンプ		
	4	21 水		オリエンテーション 葉團づくり	3		産社・産理 オリエンテーション	葉團づくり	
	4	28 水		葉團	1	2	R-CAP		葉團
	5	12 水	何を学ぶか、 どう生きるか	系列ガイダンス①	3		科目選択 オリエンテーション	系列ガイダンス①	
	5	19 水		系列ガイダンス②	3		系列ガイダンス②		科目選択について
	5	26 水		科目選択予備調査 葉團	3		科目選択ノ入力 葉團づくり		
	6	2 水	学んだことを 伝える	将来を考える①	2	1	これまでの産社ふりかえり		ライフストーリー をつくる
	6	9 水	生きていくこと、働 くこと	将来を考える②		3	仕事発見ガイダンス(働くことについて考える)		
	6	16 土		産業と経済		3	産業のしくみ		
	6	23 水		職場体験指導①	1	2	マナー講座	職場体験準備	
	7		社会の中で 生きること	職場体験指導②	1.5	1.5	職場体験準備 (役割分担・挨拶の言葉)		
	7			社会人講話	1.5	1.5	社会人講話		
	8					4	スタディサポート(ベネッセ)		
	8			職場体験ふり返り 東証・日経見学①	1	3	振り返りレポート作成・報告会	東証・日経見学 オリエンテーション	
	8			社会の中で 生きること	東証・日経見学②		4	東証・日経見学	
						30	21		
二学期	9	1 水	社会の中で 生きること	東証・日経見学③		3	東証・日経ふりかえり		
	9	8 水	自分を見つける	福祉体験①		3	福祉入門	福祉講話	
	9	15 水		福祉体験②		3	アイマスク体験 (2クラス)	車椅子体験 (2クラス)	ふりかえり
	9	29 水	何を学ぶか、 どう生きるか	筑波大学見学①		3	筑波大見学準備		
	10	6 水		筑波大学見学②	1.5	1.5	筑波大学見学・大学の先生の講演(1日)		
	10	13 水		筑波大学見学③	3		筑波大見学ふりかえり		
	10	20 水	生きていくこと、 働くこと	職業について	1	2	上級学校進学のために必要なこと/求人票をよむ		
	10	27 水	社会の中で 生きること	社会の中の課題	1	2	学問と職業		
	11	10 水	何を学ぶか、 どう生きるか	時間割を考える①	3	0	系列授業の見学(3,4時間目)		進路指導主事講演
	11	17 水	学んだことを 伝える	交流会	1.5	1.5	交流会		
	11	24 水	自分を見つける	交流会		3	交流会ふりかえり		科目選択(本調査)について
					11	22			
三学期	12	1 水	何を学ぶか、 どう生きるか	将来を考える③	1	2	これからの社会を考える		
	12	8 水		時間割を考える②	2	1	科目選択の見直し・個別相談		
	12	11 土		時間割を考える③	2	1	【免許更新講習】科目入力・ライフストーリーの見直し		
	12	15 水	1年間を 総括する	ライフプラン①	2	1	ライフプランの書き方について		
	1	12 水		ライフプラン②(発表会1)	3		クラス(グループ)発表会(1回目)		
	1	26 水		ライフプラン③(発表会2)	3		クラス(学年)発表会(2回目)		
	2	2 水	社会の中で 生きること	環境と産業①		3	環境と産業①		
	2	9 水		環境と産業②		3	環境と産業②		
	2	16 水	1年間を 総括する	研究大会準備	1.5	1.5	発表会準備		
	2	19 土		将来を考える④	2	1	卒業生と語る会		
2	25 金	研究大会		1.5	1.5	産業社会と人間成果発表会			
3	2 水	1年間を振り返る		1.5	1.5	発表会振り返り/アンケート実施			
					19.5	16.5			
年間時間数					60.5	59.5			